

学ぶ権利徹底し保障

ここにいるよ

沖縄子どもの貧困

第6部 課題と提言

(1)

木村泰子さん 大阪市立大空小学校前校長



木村泰子さん 大阪市立大空小学校前校長。2006年の開校時から9年間、初代校長を務めた。学校の日常を記録した映画「みんなの学校」が昨年公開された。

「宿題学校でやればええやん」

子どもの貧困解消に何が必要か。答えは十分か。第6部は過去に現状と課題、提言を聞く。初回は国が「プラットフォーム」と位置付ける学校のあり方について、大阪の市立小学校で貧困の子も病気の子どもも障がいがある子どもも教員も地域住民も共に学ぶ「みんなの学校」をつくった元校長、木村泰子さんに話を聞いた。

「子どもが安心して学べる場をつくり、みんなで見守る。組織や肩書だけのつながりではないから、気付いた人間が自ら動く。地域の人から『あの子、しんどそうやで』などの情報が届くことも多い」。

「トラブルはあつからこそ、そこに学びが生まれる。一つ一つ乗り越える経験が子どもたちの力になる。いじめもあるのが当たり前の。いじめがない学校なんておとぎ話だ。大事なのは子どもたちが納得する解決方法を探

「大空小学校を記録したドキュメンタリー映画『みんなの学校』では、地域に開かれた学校の様子が印象的だ」。

「学校は校長のものでも教育委員会のものでもなく、地域みんなのもの。子どもの困りが足りなければ、地域の人にどんな人入ってもらった。子どもたちが安心して学べる場をつくり、みんなで見守る。組織や肩書だけのつながりではないから、気付いた人間が自ら動く。地域の人から『あの子、しんどそうやで』などの情報が届くことも多い」。

「大阪市の中でも『しんどい地域』なのか」。

「就学援助率が50%を超える地域。家庭教育を求めれば子どもが苦しむ。宿題だけへんのやったら学校で勉強したらええやん、って考え方。しんどい地域の学校だからこそ、すべての子の学習権の保障を議論したい」。

「学力保障ではないのか」。

「多くの人が誤解しているが、学力を付ければ貧困がなくなるなんてことはない。むしろ学校が学力保障に走りすぎた弊害で、多くの子どもたちが居場所をなくしてきた。学校にとって大事なのは学力より、子どもが学ぶ権利を保障することだ」。

「学力向上の高まりに伴って排除の議論が強まっている」。

「学力テストで測れるのは『目に見える学力』。大空小が重視したのは『人を大切にできる力』。自分の考えを持つ力や自分を表現する力(4)チャレンジする力の四つの『目に見えない学力』。10年後、自分の力で生きていくには見えない学力が重要だ」。

「テスト対策は一切やっていない。いつもガチャガチャうるさくて一冊、授業が成立してない。まっとうに思えるが、数値は毎年全国平均を上回っている。さまざま人間がいる中で学ぶと、子どもたちは物事を自分で考えます。子どもたちが自分で考え、安心して学べる学校ならば『見えない学力』は後からついてくる。学力向上を目的にすれば本意に必要ない力がない。そこを間違えてはいけない」。

「個別支援学校を潰さず、みんなが同じ教室で学ぶ意義は」。

記事に関するご意見、情報をお寄せください。

ファクス: 098(860)3483 メール: kodomo-hinkou@okinawatimes.co.jp